

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570108365		
法人名	有限会社 ライフイン国見ノ里		
事業所名	ライフイン国見ノ里		
所在地	秋田市豊岩小山字前田表158番地3		
自己評価作成日	22.8.15	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特になし

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/index_cat249.html
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

恵まれた自然環境の中で、「地域交流室」等による交流を持たれ、地域の一員としての生活が行われています。また、明るく、家庭的な雰囲気の中で、利用者、職員に笑顔が観られ、安心できる生活支援が行われている事業所という印象を受けました。職員は、利用者の行動について、良く観察することでその原因を探り、改善へと導き、よりよい生活ができるように支援されております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田市東通3丁目9-31		
訪問調査日	平成22年9月13日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を事業所内に掲示、更に月1回の職員会議で再確認のうえ認識	開設当初に作られた理念を事業所内に掲示され、出勤時には目を通され、さらに月1回の職員会議でいおいても再確認が行われる等、実践に向けた取り組みをされています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念について、来月の役員会で進言し、検討される予定とのことで、実現に向けた取り組みを期待します。
2	(2)	秋田市豊岩小山字前田表158番地3 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームに「地域交流室」を併設し、地域老人も含む住民と交流をはかっている	管理者は、老人クラブの会合に参加して出席され交流を図られている他、散歩時の声掛け、選挙時の投票、地域の清掃活動を利用者・地域住民と一緒にされたり、「地域交流室」を設けられており、利用される地域の方々との日常的に交流が図られております。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の諸会合(特に老人クラブ)に積極的に参加し、認知症に対する理解を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまで月1回開催委のグループホームの実施説明、併せて災害時の協力等を要請している	町内会長、老人クラブ正・副会長、民生児童委員、消防班、地域住民、利用者家族代表がメンバーとなり、地域交流、行事、災害時の協力等について年1回開催されております。	運営推進会議の目的を理解され、さらにガイドラインに沿ったメンバーの要請や開催回数・内容等を検討され、実施されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の企画担当者に対し、現状説明し運営等について助言を得ている	事業所の利用状況や研修等に関する連絡、介護保険制度に対する疑問点への助言や指導をいただく等、連携を深めております。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基準並びに個人を尊重し職員による見守りを強化し、拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束への弊害を理解され、身体拘束をしないケアを実践されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の職員会議でお互いに確認し合い、その防止に努めている		

ライフイン 国見ノ里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所申し込みの時点で、この件について確認、現在該当者はない。入所後は自立支援のケアに専念		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約の際、重要事項説明と同時に疑問点を尋ねるなどで理解を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族の意見並びに要望を聴するため「意見箱」を設置している	契約時に利用者家族等への説明をされ、事業所内にご意見箱を設置する等されています。また、電話や面会時に状況を報告、その際、ご意見を伺い、運営に反映されております。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時に施設の現状説明し、運営並びにケアに反映させている	職員からは、日常的な業務の中や申し送り、月1回の職員会議等で意見や提案のできる機会を設け、運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに前年度の状況を説明、併せて本年度の目標について職員から意見を聴し、職場環境改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修並びに他機関が行う研修に積極的に参加させ、質向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	22年度から協定し、職員の研修並びに情報交換等をおこないお互いに質の向上に努めることとしている		

ライフイン 国見ノ里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアカンファレンスを十分に行い、職員全員が状況確認、情報を密にして本人に寄り添う関係をつくる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス計画表が出来た段階で家族に届け、要望等を受けながら家族の同意を得ている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする	これまでの経緯、サービスの必要性、本人と家族の思い、要望の把握等サービス受容、提供両者が納得のいく関係になるよう努める		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームならではの家庭的な雰囲気を目指している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン作成時に本人・家族の了承、受諾等のれんらくなど折々連絡を密にし、本人を支える関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出深い場及び馴染みの人との交流はなかなか難しい面もあり、極力昔話などを聞きだしたりしている	本人からの要望があった時には、馴染みの理美容院に連れていく等され、これまでの関係が途切れないように支援をされており、今後も要望があれば継続する予定です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	プライバシーを傷つけない程度に相手方の症状を説明し、理解を求めるように努める		

ライフイン 国見ノ里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入所が多い。退所したとしても県外転出が多い。退所した後も電話などで状況報告がある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や要望で受け入れが出来るものは尽力して叶える。出来ないことは、その理由を明確に示し了解を得る	日常生活の中で、本人からの意見や要望が言い出しやすいように話しかけを行い把握に努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで利用していた事業所からサービス内容の聞き取りをおこなっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活により添い言動の中から把握する		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が来所の際サービス等についての意見、要望等を伺うと同時に、ホームから近況について説明。その話し合いの中からアイデア活した計画を作成する	家族等からは面会時や状況報告時に意見や希望の確認が行われ、日頃からの状況を把握している介護職員の意見を踏まえ、反映した介護計画書を介護支援専門員が作成しております。	介護計画書の記載方法については、介護者目線で立案することなく、利用者本位の立案を、また、計画が永遠となることのないように期間を設けられることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、職員間の連絡帳申し送りなどによる情報を共有し介護内容の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

ライフイン 国見ノ里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	7月～9月まで散歩の際、近くの神社にと森林浴を楽しみ、また稲の成長などを見聞		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人は勿論、家族と協議して受診するようにしている	受診については基本的には家族対応とされておりますが、状況によってはホームでの対応もされております。また、協力医の往診による支援も行われております。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(看護師未設置)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、ケアマネはじめ職員が病院を尋ね情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在該当なし	事業所では、ターミナルケアは行っておらず、重度化や終末期には、利用者家族等と協議をしたうえで、事業所にできることを支援していく方針で取り組まれております。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルの基づいた処理するよう施設内研修で実践している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、秋田市消防本部の指導のもとで昼夜を仮定してその訓練を行っている	地域の消防班にも災害時の協力を依頼され、年2回の防災訓練を消防署立ち会いの下で実施される計画を立てられ、すでに1回は実施済みでもう1回は、来月予定されています。尚、実施後の記録の整備を期待します。	

ライフイン 国見ノ里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同じ目線で対話、相手の話をよく聞き取るなども心がけている	利用者一人一人を理解され、同じ目線での対話に努められています。	たとえ認知症があっても人生の大先輩としての敬愛の念を持たれ、尊厳を損なうことのないように接することを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩やレクリエーション、居室に伺って対話の中から本人の要望を聞き取り、出来る範囲で支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションなど、天候やその時の体調に合わせておこなう		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	散髪、入浴後などの声掛け、本人が似合うと思っている装いはほめる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成の段階で利用者の希望を聴き、近付けた調理・準備には一緒に作業している	食事の下ごしらえや下膳等のお手伝いをいただきながら、献立の説明や味等について利用者の好みを伺う等の会話をされ、楽しみながら召し上がっておいりました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食に重さをおいてバランスをとっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者全員が習慣とする指導をしている		

ライフイン 国見ノ里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーに配慮しながら見守りをし、自立への支援をしている	利用者一人ひとりの状態を把握され、仕草や行動から排泄パターンの把握に努め、紙パンツ使用者を布パンツに変更され、状態が落ち着かれる等の優れた取り組みもみられました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた食事、日々の軽い運動・散歩など		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人によっては下着が汚れているため恥ずかしがって入浴を嫌がる場合もある、さりげなく誘導で入浴(喜んで入浴)	最低でも週に2回以上の入浴をしていただけるように支援をされています。入れない場合は、足浴や清拭で対応されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	湿度の管理、布団などの調整など夜間の見回り		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	分野が違うので医師の指示により支援		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人の個性を見極め、希望に添えるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	個人の体調確認、天候にあわせ散歩や森林浴を、また四季に合わせての外出を習慣としている	天気を観ながら、敷地内での日光浴や近くの森林浴、近所の散歩等が日常的に行われています。また、ショッピングモールへの買い物やドライブ等も適宜行われております。	

ライフイン 国見ノ里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個人での金銭管理は全員不可能。 預かり金を必要に応じて手渡す(移動販売)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ときによっては、封筒の上書きの代筆、投函		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除は内外と問わず徹底的に、居室は週1回清掃、散歩のおりに摘んでくる草花でホールや居室を飾り楽しんでいる	食堂ホール、廊下には、手作りの作品の展示や季節の草花が生けられ、ゆったりとした気分でテレビが見られる畳敷きの小上がりやソファの配置、対面式のキッチン等、家庭的で居心地の良い空間が作られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ホールの小上がり、ソファなどそれぞれ利用しつろいでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が入居前過程で使い慣れた物入れなど、本人が使いやすいような配置、私物があることにより居場所と認識している	本人の使い慣れた必要とされるものが持ち込まれ、居室では自由に過ごしやすい環境が作られています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の要所(非常口、トイレ)は常にその場所に誘導して説明している		